

「総サイロキシン(T₄)、トリヨードサイロニン(T₃)」 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査方法および基準値等を変更させていただくことに致しましたので、取り急ぎご案内申し上げます。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目/変更内容

項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧	案内書掲載頁
522	総サイロキシン (T ₄)	検体量	0.5 mL	0.3 mL	P38
		検査方法	CLEIA	ECLIA	
		基準値(単位)	4.53~8.38(μg/dL)	6.10~12.4(μg/dL)	
		報告範囲(単位)	0.50未満、 0.50~99900000(μg/dL)	0.42未満、 0.42~24.8、24.9以上(μg/dL)	
		報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁	有効3桁、整数8桁、小数2桁	
523	トリヨードサイロニン (T ₃)	検体量	0.5 mL	0.3 mL	P38
		検査方法	CLEIA	ECLIA	
		基準値(単位)	0.62~1.16(ng/mL)	0.80~1.60(ng/mL)	
		報告範囲(単位)	0.20未満、 0.20~99900000(ng/mL)	0.20未満、 0.20~6.50、6.51以上(ng/mL)	
		報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁	有効3桁、整数8桁、小数2桁	

変更期日

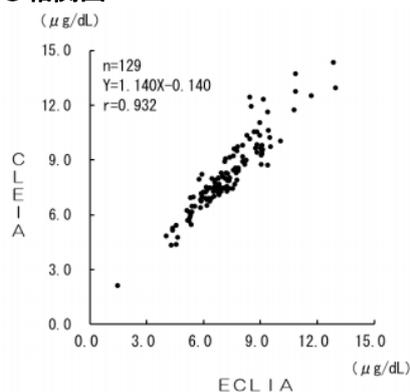
- 令和3年9月30日(木) 受付日分より

●総サイロキシン(T₄)

総サイロキシン(T₄)は、甲状腺でトリヨードサイロニン(T₃)とともに合成され、血中では大部分が蛋白質と結合した結合型で存在し、ごく少量が遊離型として存在します。血中のT₄は抹消組織で代謝され、遊離型T₄のみがホルモン作用を発揮します。従って、甲状腺機能検査として遊離T₄量を測定することが望ましいのですが、結合型と遊離型は動的平衡状態にあるため、結合型を測定することによっても血中のT₄濃度を評価することができます。

エスアールエル検討データ

●相関図



●参考文献

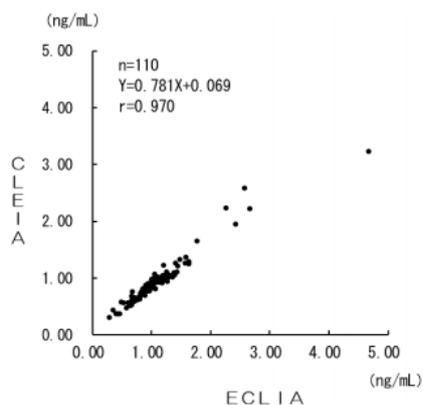
女屋 敏正:臨床検査 38(11):99~101, 1994. (臨床的意義参考文献)

●トリヨードサイロニン(T₃)

トリヨードサイロニン(T₃)は、総サイロキシン(T₄)に比べて速効性で作用効果も大きく、生理的に重要な物質です。特に、T₃ thyrotoxicosisとよばれる甲状腺機能亢進状態では、T₄濃度(Total T₄、FreeT₄)、TBGは正常値を示しますが、T₃濃度は高値を示します。また、血中T₃濃度の測定は、甲状腺機能亢進症およびその再発の早期発見、甲状腺機能亢進症の治療経過観察の指標となり、甲状腺機能の診断に有用です。

エスアールエル検討データ

●相関図



●参考文献

池田 斉:臨床検査 38(11):102~103, 1994. (臨床的意義参考文献)